

2012年度(平成24年度)事業報告について

組織運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会の開催

- | | | |
|----------|-------|-------------|
| ○第1回評議員会 | 6/11 | 中京青少年活動センター |
| ○第2回評議員会 | 3/25 | 中京青少年活動センター |
| ○第1回理事会 | 5/31 | ウイングス京都 |
| ○第2回理事会 | 10/25 | 中京青少年活動センター |
| ○第3回理事会 | 3/14 | ウイングス京都 |

(2) 新・公益法人への移行

前年度より移行準備を進め、3月26日に認定を得て4月1日に移行登記を完了。公益財団法人としてスタートした。

(3) 人事交流

市外郭団体間の人事交流促進の方針を受けて、(公財)京都市国際交流協会と協定書を締結し、職員の相互出向を実施した(年間1人)。

(4) KES認証の継続

平成20(2008)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続し、環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。スタッフの環境意識充実、市民啓発事業の実施などをテーマとして年間活動を行った。

(5) 職員研修の実施

- 研修プロジェクトを運営し、今後の組織基盤強化に向けて計画的な人材養成に向けた取組を進めた。
 - * 新人職員研修(①職員・ワーカーとしての基礎 ②現場での実践記録を作成しSVを受ける)
 - * 若手職員研修(2グループに別れてワーカーとしての基盤となるスキルについて研修を実施)
 - * 外部派遣研修(多様な研修機会に職員を参加させた)
 - * 所長・管理職を対象としてマネージメント研修を実施(危機管理, SR等)。
- 事例研究会を定例開催した(年間10回)。
- 子ども・若者育成支援推進法(支援法)関連業務に対応した職員研修を実施した。
- 全職員が参加する「全体研修会」を実施した(6/13)。

I. 自主事業

協会自主財源と市補助金で実施した。主な取り組み内容は、若者の市民参加促進の事業、“若者に届く”情報発信、戦略的な広報、それらの課題を追求するための調査研究及び組織マネージメントの仕事である。

(1) 情報発信事業(旧リーダーバンク事業)

情報発信事業(旧リーダーバンク事業)は、青少年が地域活動に参加していくための機会作りを目的として下記の取り組みを実施した。

① 社会参加情報の提供のため「ボランティアニュース」の発行

- 主に10代を対象に、ボランティア参加の機会提供をすることに重点を置いて季刊発行した。
 - *年4回発行(139号～142号)。各4000部作成。年間情報提供件数120件。情報提供団体38団体。
 - *141号・142号については京都芸術デザイン専門学校生にデザイン協力をしてもらい作成した。
- WEB版(ブログ形式)も作成、公開した。

② 高校生がメディアを使って意見表明する機会の提供「the keys!」

- 高校生年代が自分たちの想いをカタチにし主体的に発信するフリーペーパー作成を支援した。高校生スタッフが企画、取材、原稿作成・デザインなど全てを行い発行した。
 - *年2回発行(9月/2月)。
 - *20号「僧職系男子にトツゲキ☆」他/21号「KBS森谷アナウンサーインタビュー」「高校生SNS事情」他

③ 青少年団体、青少年の支援に関わる団体との交流・情報交換会の開催

- 活動報告と情報交換を行うための場として実施した。①2/15②2/17

④ 青少年活動センター利用グループの情報発信

- センター登録グループ、青少年育成団体の情報をウェブサイトに掲載。
- 輝く学生応援プロジェクト「学生PLACE+」と、青少年活動センターグループ登録の共通登録ができるようになった。

(2) 市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す。WACCORD(青少年市政参加推進プロジェクト)提案を受けた取り組みの総括に基づいて、新たに市政への参画を進めるプロジェクトを実施した。

① 市政参加のためのプロジェクト

市青少年モニターへの青少年の参加を促した。

② 青少年自らが必要だと考えるテーマについて主体的に取り組むグループの支援

前年度実施した「恋愛塾」参加メンバーが、自主的な企画を考える場づくりを支援した。

*AIDS文化フォーラムや他事業での企画に関わるメンバーが出てきた。

③ 子ども(小中学生年代)の頃からの地域参加を進める事業の実施

西陣地域でのラウンドアイズ京都(地域の子どもたちが地域を再発見するプログラム)は一旦終結とし、他地域での実施に引き継ぐこととした。

*下京センター事業(しもせいフェスタ)の中にコンセプトを引き継ぎ、実施を試行した(ウォークラリー他)

④ 高校生のまちづくり活動体験「ユースACTプログラム」実行委員会への参画

高校生の市民参加プログラムとしてシチズンシップ共育企画、同志社大学、ユースビジョン、きょうとNPOセンターなどによる実行委員会に参画した。

*「震災」をテーマにしたプログラムで現地支援を高校生が体験(参加2人)。

*長期実践コースとして、“いじめ”をテーマに高校生が合宿を企画(1/28～29:参加5人)。

(3) 青少年関係団体のネットワーク形成事業

① 青少年グループ・育成団体・NPO事業への共催・後援

- チャイルドラインの共催(NPO法人京都子どもセンターが運営する子ども電話相談に協力)した。
- 少年補導委員会・関係団体の主催する事業に共催した。
- 京都市の「輝く学生応援プロジェクト」事業で設置された「学生PLACE+」運営に参画した。
 - *きょうとNPOセンター、ユースビジョンと三者による共同運営を行った。

<共催事業>

事業名	主催
北区内ボランティアセンター関係者交流会	(北センター)
子育てサロン「わんわんキッズ」	わんわんキッズ運営委員会
下京歩歩塾	下京歩歩塾運営委員会
「福祉コミュニティの創造Ⅱ」自分をいかして生きる	くらしの支援NETWORK
シンポジウム『現代の若者の自立とその支援を考える』	親子支援ネットワークあんだんて
にはんごを母語としない中学生、高校生の学習支援	たけのこ会
スマイルミュージックフェスティバル	NPO法人音の風, 京都市東山区社会福祉協議会
伏見まるごと博物館	伏見まるごと博物館運営委員会 (伏見センター)
アフタースクール洛東(ASR)	京都中央地区BBS会
たちばな倶楽部(日本語教室)	たちばな倶楽部
平成24年度視覚障害者ボランティア入門講座	京都市山科身体障害者福祉会館
春休みあそびの広場	やましな子育て支援連絡会
レクリエーションインストラクター養成講習会	京都府レクリエーション協会
第11回やましなふれあい手話初心者講座	山科区社会福祉協議会
中高生の福祉体験事業 山科ユースアクション2012	山科区社会福祉協議会/山科区ボランティアセンター
「チャイルドライン京都」ボランティア養成研修会	NPO法人チャイルドライン京都
緊急提言「いじめについてみんなで考えよう！」	NPO法人チャイルドライン京都
世界とつながるトラベルフェスタ「旅の輪(仮)」	一般財団法人 京都ユースホステル協会
学びサポート×暮らしサポート全国実践交流会 in 京都	NPO法人 山科醍醐こどものひろば
子どもCity ミニ京都@らくさい	NPO法人 京都子どもセンター
過労死・過労自殺, 石綿肺, 胆管がんと企業責任の所在	NPO法人 あったかサポート
青少年音楽育成プログラム	ミュージックオフィスクラウド
Enjoy Double Dutch	京都府ダブルダッチ協会

<後援事業>

事業名	主催
にはんごを母語としない中学生と保護者のための多言語進路ガイダンス	京都市教育委員会 (伏見センター)
卑屈にならない就活のススメ心が軽くなる仕事選び	NPO法人あったかサポート
第2回AIDS文化フォーラム in 京都	AIDS文化フォーラム in 京都運営委員会
京都やんちゃフェスタ2012	京都市/児童館学童連盟/子どもネットワーク連絡会議
子どもの貧困と生きづらさを抱えた若者にどう向き合うか	NPO法人山科醍醐こどものひろば
”人間と性”教育研究協議会全国夏季セミナー	一般社団法人 ”人間と性”教育研究協議会

②稀少ニーズにかかわるグループや育成団体への共催, 協力を行った。(以下一覧)

事業名	主催
摂食障害の当事者グループ活動	かなりあ京都
にはんごを母語としない中学生、高校生の学習支援	たけのこ会
スタディスペースふしみ	スタディスペースふしみ
めくるめく紙芝居2012	めくるめく紙芝居実行委員会
NA(ナルコティクス・アノニマス)響グループ	NA響グループ (※NA=薬物依存者の当事者活動)

③機関誌『ユースサービス』の編集・発行

○第12号から第15号を各3000部発行。関係団体や個人, 学校・大学公共施設及び, 厚生労働省, 内閣府他の全国の関係機関に配布した。

- *第12号/7月 特集「教育格差に挑む～学習支援の広がり～」
- *第13号/10月 特集「街コン大流行～地域活性化にも一役～」
- *第14号/1月 特集「ユースシンポジウム～若者と共に生き方をデザインする～」
- *第15号/4月 特集「どうする日本の若者支援」

④関係行政機関・関係団体への協力(協力事業/以下, 主なもの)

- 外部機関・施設などへの委員等として参画・協力した。
 - *京都市社会福祉協議会(評議員) *京都市青少年活動推進協議会(委員/専門委員)
 - *福祉ボランティアセンター(企画運営委員) *京都市教委教員採用試験面接者
 - *吹田市青少年センター(評価委員) *京都市子どもを共に育む市民憲章推進委(委員)
 - *京都市HIV感染症対策協議会(委員)
 - *人づくり21世紀委員会(幹事/副幹事長/行政区ネットワーク委世話役他)
- 「AIDS文化フォーラムinきょうと」実行委員会への参画
 実行委員会に参加するとともに、開催当日(10/7~8)に「若者の性と生を考える」ワークショップを企画運営した。
- 「京都アートフリーマーケット」への協力・共催
 - *若手造形家・活動者の作品の展示販売に協力し特別会場を設置した(10/6, 10/7)。
 - *青少年グループや福祉団体に協力してもらい、広報ブースなどを設定してもらった。
- 全国若者支援ネットワーク機構への加盟・協力
 若者支援に関わる団体の全国ネットワークに協力し理事を派遣した。
- 外部機関・施設などからの依頼に応じて、企画提供や講師派遣などの協力を行った(主なもの)。
 - *「若者シンポジウム(ユースエンパワメント委員会YEC主催)」(4/15:講師)
 - *「豊田市青少年センター・ユースサポーター養成講座」(7/14:講師)
 - *「子ども・若者支援者ネットワーク研修(立命大主催)」(9/8・9/23:講師)
 - *「不登校フォーラム」(11/4:分科会担当)
 - *「佛教大学福祉教育開発センターシンポジウム」(1/20:実行委員)
 - *「若者に関わる人たちのフォーラム」(2/25-26:分科会講師)
- 少年非行の減少や軽減につながる取組での連携
 - *スクールサポーターの活動に協力する(センターを使って少年との面談 26回)とともに、非行少年の立ち直り支援活動の場を提供した(北センター:地域清掃)。
- 大学コンソーシアム京都連携科目「ユースサービス概論」を開講(立命館大学と共同)した。

⑤インターンシップ/各種実習の受入れ

- 京都女子大学『社会教育実習』受け入れ, 10月中頃より開始。(南センター1人)
- 京都女子大学『社会教育基礎実習』受け入れ, 10月中頃より開始。(東山センター5人)
- 立命館大学VCTP受入れ, 7月15日~(90時間以上) (北センター4人 中京センター3人)
 - *大学コンソーシアム京都及び京都芸術デザイン専門学校からの受入れは平成24年度なし。

⑥地域ネットワーク事業中京区内の関係団体・機関との連携

事務局のある中京センターにおいて、一過性でない継続的な地域活動としての取り組みを進めた。

- 中京区民ふれあいまつりへブース協力
- 思春期の子どもたちを支える実務者ネットワーク:区社会福祉協議会, 子ども支援センター, 保健所等と中京センターにおける「思春期」の子ども・若者に関わる機関・団体の情報交換及びセミナーを共同開催した。
 - *思春期の子どもと向き合うセミナーを「10代の若者の性」をテーマに実施した(11/8)。

⑦ユーススクエア高辻の運営

- 元格致小学校校舎を借用して, 主催事業やボランティアグループの活動の場として運営した。

⑧震災・支援活動への参加

- 震災の影響で京都に移ってきた子ども・若者の支援
 - *学習支援を行う大学生グループの取組(伏見での学習会)に協力した。
- 京都に住む若者と震災支援活動をつなぐ取組み。
 - *震災に関する若者の思いを動画にした『きょうと若者アーカイブ 2011 ~震災, その後~』をウェブサイトにアップした。

(4)事業企画・運営体制の充実

①企画委員会の運営

- 理事会報告「事業検証の位置づけ(なぜ“検証”することが必要か)」を取りまとめ5月理事会に提案。
- 公益法人化に伴い、理事会を補佐する機関から、より事業現場に近い「課題」検討を行う機関としていくこととなった。

<委員会の開催日程・活動日程>

月 日	内 容	検討事項・作業詳細
2012. 7. 19	委員会	今後の委員会の進め方について検討
2012. 11. 29	委員会	今後の委員会の進め方について検討

<企画委員一覧>

斎藤 真緒	立命館大学産業社会学部准教授	知名 純子	まるいクリニック医務部長/PSW
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表	村田 博信	京都市教委生涯学習部首席社会教育主事
谷口 肇	京都刑務所法務教官	幸重 忠孝	NPO法人山科醍醐こどものひろば理事長

②スーパーバイザーの委嘱

- 現場スタッフを支え、業務の質的な向上をはかるためにスーパーバイザー(山本智也氏:京都ノートルダム女子大)を委嘱し、年間を通してコンサルテーションが受けられる体制を作った。(17回実施)

③協会・青少年活動センター事業の検証

- 企画委員会の検討課題に取り上げて検討していただいた。(山科・伏見センターの検証ワークを実施)
- 外部専門家を招いて事業評価制度のレベルアップの作業を行った。
 - *評価アドバイザー 田中 博氏(日本評価学会)を委嘱。協会の評価制度の改革に向けて提案をいただくとともに、評価方法についての研修を企画実施した(MSC研修 他)。

④自立支援につながる新たな取り組みの試行

- 若者サポートステーション、青少年活動センターが共同して、9月から試行的に「野菜づくりから仕事に近づく」を実施した。約3ヶ月のプログラムを通して、参加者(11人)に就労や社会参加に向けた変化を確認できた。

⑤自主財源の拡充

- 公益財団化に伴い、寄附金を獲得するための取り組みを進める。
 - *市民活動への寄附獲得事業に詳しい団体、関係者への情報収集を進めている。

(5)調査・研究・研修事業

①ユースワーカー養成に関する立命館大学との共同研究

- 学部レベルでの養成に向けた検討、資格制度についての研究を継続する。
 - ユースワークの裾野を広げることも意図して、定例的に実践者からのテーマに即したレポートを受けて議論する研究会を開催した(隔月1回程度)。
 - *共同研究メンバー
(立命側)野田正人氏・斎藤真緒氏・荒木寿友氏・小西浩嗣氏 (協会側)遠藤理事長・水野・大場・松山
 - *5/23「子どもの貧困と学習支援」8/1「子ども若者育成事業とユースワーク」、10/24「北欧の若者支援施策とユースワーク」、12/19「地域での若者の生活を支援する(NPO法人みらいずの活動から)」、2/13「若者に届くセクシャルヘルスのプログラム(アウトリーチの実践から)」各約15人が参加。
- ユースワーカー養成のあり方の検討及びテキスト作成。
 - *外部研究者の研究チーム(以下)に参画し、ワーカー養成のあり方についての研究を進めた。

②ユースワーカー養成プログラムの実施

- 大学院(応用人間科学研究科)でワーカー養成コースを共同運営した。

(概論) 12人受講／(演習)6人受講

(実習) 6人が南・山科センター、サポステ、事務局及びNPO法人京都教育サポートセンターで3～5ヶ月の実習を行った。

○ユースワーカー資格取得プログラムの実施(別掲＝受託事業で実施)

③外部機関・研究者との共同研究

他都市での実践や専門職養成についての調査・研究に加わり、ユースワークについての検討を進めた。

○「貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむための福祉・教育プログラム開発」の調査に協力した。

* 大学卒業後の進路不安定者に関する調査に協力(研究代表:同志社大学埋橋孝文教授)。

○佛教大学福祉教育開発センターの「発達障害の若者の就労の場づくり」に関する研究に参画した。

* サポステ及び子ども・若者支援室から実行委員会に参加。(1/20:シンポジウムに協力)

○「子ども若者支援政策とSocial Pedagogy」研究調査(代表:法政大平塚教授)に参画(研究協力)した。

* 京都における取組の報告を行い、研究素材を提供した。(2/3:研究会を京都で開催)

* 海外調査(イギリス・デンマーク・フィンランド)にワーカーを派遣(9月)した。

○子ども若者支援専門職員養成研究への協力

* 奈良教育大の生田教授を代表とし社会教育研究者による研究会に参画(研究協力者)した。

(6) 青少年活動センター担当の自主事業(詳細は別掲)

○スポーツ事業(中京担当)

○「ものづくりワークショップ」／創造工作室開放事業(東山担当)ほか

Ⅱ. 協会受託事業(事務局／中京青少年活動センター担当)

協会事務局と中京青少年活動センターを一体的に運営し、7ヶ所のセンターの中核的な機能を果たした。個別領域の事業は中京センター事業とし、子ども・若者支援室・若者サポートステーション・他センターと連携を図りながら包括的な成長支援を目指す取組は事務局(事業部門)が調整をしつつ進めた。

(1) 指導者養成事業

青少年活動センターで活動するボランティアスタッフや、利用グループのリーダーなどを対象とした研修、地域において若者の成長支援を担う専門スタッフ養成のためのユースワーカー養成を行った。

① ユースワーカー養成・資格認定事業

○養成講習(8月及び3月)、資格取得コースの第7期・第8期を実施した。

② 各青少年活動センターにおけるボランティアスタッフ養成

○各センターにおいてボランティア活動の機会をつくり、ユースワーカーのサポートによるボランティアリーダー養成を行った。(別掲)

(2) 青少年の交流促進事業(青少年と青少年に関わる多世代が交流できる場づくりの事業)

① ユースシンポジウム「若者と共に生き方をデザインする」の開催

平成24年度は「デザイン」をキーワードに若者の生き方と支援のカタチを、若者の「フツー」や「自分らしさ」を、共に考える場とした。

*全体会:基調講演とパネルディスカッション

*分科会

A「つながりの中に生きる若者の生き方デザイン」 B「10代の生きのび方～中高生時代をふりかえって～」

C「魅力ある生き方～分岐点で出会ったもの～」 D「こんな生き方も“あり”です」

*交流会(自由参加)、参加者約80人。

② 音楽とダンスの祭典「ライブキッズ23回大会」の開催

○3月16日に前夜祭、17日に本大会を実施。前夜祭では、初の試みとしてバンドレッスンと、DANCE出演チームの公開リハーサル、出演者・スタッフ・制作関係者との顔合わせ、交流会を実施。共に創りあげる意識を共有することができた。

○また、右京ふれあい文化会館のロビーにて、スタッフの企画したブースや当協会・青少年活動センター紹介ブース、及び掲示物、右京保健センターのブース出展を行った。スタッフは、日頃のミーティング運営、当日に向けた準備・練習や広報(開催・出演者。スタッフ募集)、広報物等のデザイン、映像制作等を主体的に行った。(ボランティア登録数:43人)

*スタッフ募集:9月18日・25日説明会/出演者募集:10月23日～DANCE12月20日・MUSIC1月20日

*選考:MUSIC1月30日・DANCE2月4日

*LIVE KIDS in 新風館:1月26日27日

(3) ユース info.スクエア(総合相談窓口)事業

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を青少年活動センター内に設置しており、ニート、ひきこもり、不登校等、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また、ロビー等を活用して若者に特有关心な話題を気軽に語り合うことのできるカフェ形式の事業や居場所プログラムを充実させた。

① 総合相談窓口の充実(子ども・若者総合相談窓口の運営)

○「子ども・若者総合相談窓口」を運営し、子ども・若者支援室と情報共有を図り一体的な支援を行った。

<相談件数及び相談内容>

就労	48	就労以外の進路	29	その他	65
ひきこもり	116	家族内の問題	25		
不登校	30	人間関係	30	合計	343

*新規相談件数は、343件(前年度217件)。うち本人からの相談は130件(37.9%)であった。相談内容はひきこもりが33.8%と最も多く、それ以外にも多様な相談を受けている。

②若者に関心の高い課題に対応した語り場事業の実施

○「あたりまえじゃない生き方実践講座」

働き方以外のシェアハウスや恋愛をテーマに盛り込むことで、関心を持つ社会人経験の少ない20代前半と、就活中の大学生の参加が得られた。(12/20, 1/17, 2/21, 3/21の4回開催)

③ロビー空間を使った交流プログラムの実施

○「あったCafe(カフェ)」を開催

*ボランティアの協力を得て5回実施。七夕など毎回テーマをもって利用グループメンバーやロビー利用者、自習利用の若者などの参加で交流した。

○「何でも質問BOX」の設置

*日頃疑問に思っていることや悩んでいることを対面ではなく質問用紙に記入し、投かんしてもらい匿名相談を実施した。軽いテーマから性や恋愛、友達付き合い、進路などに関わる悩みの吐露まで幅広い“質問”があった。

④居場所プログラムの実施

○「街中コミュニティ」を開催。不登校、ひきこもり、対人関係に不安があるなど、課題をかかえる青少年を対象に、自他と向き合い、互いに交流できる居場所、コミュニティ形成の場を提供した。子ども・若者支援室、サポステ、中京センターの共同事業として開催。

*毎月2回(第2・第4金曜)開催。実習生などの協力を得て実施した。

*支援室、サポステからのリファーによる参加者も受け入れた。

⑤相談事業の全体調整・体制の強化

○総合的な支援体制強化に向けて、センターの支援機能について検討するとともに相談体制を整備した。

*各センターに相談担当者を置くとともに、コアスタッフ会議を設定し、相談事業の課題について協議した。(年2回)

*「子ども・若者支援ネットワーク研修会」(立命館大学主催)等にワーカーを参加させ研修を行った。

*相談関連の資格取得プログラムに職員を派遣した(産業カウンセラー/キャリアカウンセラー他)。

(4)「居心地の良い」施設提供のための取り組み

①利用しやすい“入り口”となるスポーツ事業(ヨガなど=自主事業)の実施

○ヨガ、ボクサネス、ダンスなど6教室(年間4クール、各10~11回程度)を実施した。

○ボランティアコーチ(アドバイザー)を配置し、トレーニングジムの安全な利用のためにガイダンスを実施した

○ジムの運営及びガイダンスの実施

*トレーニングジム利用者を対象に、ジムの安全利用を目的としたガイダンスを行った。(月2回)

*下京センターのジム登録との共通化を実施し、どちらのガイダンスを受講しても双方のジム利用を可能にした。

*ガイダンスの実技指導はボランティアコーチ(登録5人)の協力を得た。

(5)広報事業

①広報・機関誌の発行

○協会機関誌「ユースサービス」を年4回発行し、“ユースサービス”の考え方や協会、青少年活動センター、支援事業の取組や現状を広く市民に広報した(自主事業で発行)。

②広報戦略プロジェクトの運営

○「ホームページの閲覧解析の方法」、「広報の基礎と計画」、「Facebook を活用した広報」という3つのテーマで研修を実施。

○各事業所の広報意欲を高めることを目的に、広報コンペを開催した。

○広報先データベースの見直しを行った。(新規広報先の開拓、データ収集、整理)

③インターネット(ウェブサイト)の活用HP(インターネットホームページ)の運用

○全センター統一した部屋の空き状況を閲覧できるWEBページ、事業や施設等について問合せしやすいフォームを作成、公開した。WEBサイトからの問合せが月20~30件を数えるようになった。

④青少年活動センター以外での若者へのアプローチ

特に情報や資源に乏しい若者が、求めるときに支援や活動機会を得られるための取組を試行した。

*大学でのボランティア活動説明会にブース出展し、相談や情報提供を行った(京都産業大/立命館大)。

*洛西エリアで京都子どもセンターが主催した「こどものまち」事業に協力した。

(6)地域若者サポーターの活用

地域若者サポーターの活動の場づくりを各青少年活動センターと連携して取り組んだ。(詳細は別記)

事業一覧(自主事業及び中京センター事業)**<自主事業>**

事業分野	事業名	日程	回数	参加数/のべ数		備考
1. 情報発信事業	ボランティアニュース	年4回発行	4	—	—	4500部発行
	the keys!	年2回発行	2	10	265	5,500部発行
	広報誌「ユースサービス」	年4回発行	4	—	—	3,000部発行
	育成団体交流会	2/15, 2/17	2	21	—	15団体
2. 市民参加促進事業	ユースACTプログラム	10/21～3/1	19	8	59	school of ACT
	思春期ネット/保護者向けセミナー	9/8	1	15		
3. ネットワーク形成事業	ミニ京都(洛西)	11/24, 25	2	6	132	
	グループ共催/かなりあショップ	毎月	12		72	

<協会受託事業>

事業分野	事業名	日程	回数	参加数/のべ数		備考
1. 指導者養成	YW養成講習会①	9/15, 16	2	17	34	
	YW養成講習会②	3/2, 3	2	18	36	
2. 青少年の交流促進	ユースシンポジウム	12/1	1	88	242	ボランティア含む
	ライブキッズ(新風館)	1/26, 27	2	290	700	新風館
	ライブキッズ(右京)	3/16, 17	1	173	1,227	右京ふれあい文化会館
3. ユースinfoスクエア	“あたりまえ”じゃない生き方実践講座	12/20, 1/17 2/21, 3/21	4	23	52	
	何でも質問Box	通年		—	141	
	あつたcafe	11月～2月	5	102	102	
	街中コミュニティ	4月～3月	23	25	497	ボランティア含む
4. 居心地のよい施設提供 (スポーツ事業)	フリースタイル①～④	年間4クール	42	35	237	
	ネイチャーヨガ①～②		22	30	233	
	すっきりヨガ①～②		20	25	181	
	ボクサネス①～③		24	16	126	
	ベーシックヨガ①～④		42	106	758	
	ヒップホップ①～④		41	48	331	
	ジムガイダンス		通年	24	286	286
その他	フリータイム	通年			928	
	自習室	通年			2,341	
サポーター養成	地域若者サポーター	毎月(10回)	10		146	

Ⅲ. 子ども・若者支援事業及びその他受託事業

1. 子ども・若者総合支援事業(指定支援機関受託業務)

京都市が設置した子ども・若者支援地域協議会において、支援全般の主導的役割を担う指定支援機関として、支援コーディネーターを中心に関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。平成24年度からは、中京青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と一体的な運営を行うとともに、子ども若者総合相談リンク機関として位置づけられた他の青少年活動センターとも密接に連携して取り組んだ。

(1) 支援対象者等に対する相談、助言、指導及び支援の進行管理

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して相談、助言、支援のコーディネート及び進行管理等を行った。対象者の状況に応じて、住居やその近隣の施設などへのアウトリーチの方法も用いた。平成24年度、支援を始めて6ヶ月経過した29ケース中、20ケースで状況の改善が見られる。(下表参照) 前年度実績と比較すると、改善率は58.0%から69.0%に向上した。

○丁寧なインテーク面接によって、アセスメントに必要な情報を把握するとともに信頼関係を構築し、それに基づいた支援の計画を立案し、支援に当たった。

* 前年度からの継続が60ケース、平成24年度新規が27ケースであり、平成24年度は合計87ケース。

* 最終数が大幅に増加し、上記のうち35ケースが最終している(前年度15ケース)。

* 本人支援のためのアウトリーチケースは、34ケース79回。うち家庭訪問は11ケース43回。

<6ヶ月経過対象者の状況>

		6ヶ月経過時点						合計
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	
支援開始時	レベル1	5	3	3	2	2	15	
	レベル2	1	1	3	4	2	11	
	レベル3			2	1		3	
	レベル4						0	
	レベル5						0	
合計		6	4	8	7	4	29	

評価基準

レベル1	家族等の相談のみで、対象者の自発的な行動がみられない。
レベル2	対象者が現状を変えるための認識を持つようになった。
レベル3	対象者が現状を変えるために、支援者に促されて行動を起こすようになった。
レベル4	対象者が現状を変えるために、自発的に行動を起こすようになった。
レベル5	対象者が、不安定さが残るものの社会参加について自覚を持ち、継続した社会参加のための行動を実践できるようになった。
レベル6	対象者が、安定して自立した社会生活を営めるようになった。

(京都市子ども・若者総合支援マニュアルより)

(2) 個別ケース検討会議の開催

必要に応じて、他機関とケースへの対応について協議した。

○支援の資源となる機関や施設、支援者等と連絡を取り、コーディネートを図った。

* 個別ケース検討会議を56ケースにおいて延べ165回実施(前年度は46ケース、148回)

(3) NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施及びNPO等民間団体との連携

- NPO等の支援活動への助成事業を通して、支援活動を促進するとともに指定支援機関及びNPO等、民間団体の連携・協力の促進、スタッフの力量開発への協力を行った。
- 10団体を採択。以下9団体の事業について、助成を行った。(1団体は団体都合により辞退)
NPO法人インホープ 親子支援ネットワークあんだんて NPO法人京都教育サポートセンター
NPO法人恒河沙母親の会 NPO法人山科醍醐こどものひろば NPO法人京都ARU
勇気の出るライブ実行委員会 一般財団法人まちの縁側クニハウス&まちの学び舎ハルハウス
NPO法人若者と家族のライフプランを考える会
- 事業報告研修会の開催(3/25)

(4) 効果的な施策・事業の企画立案及び広報

- 支援方法における課題抽出、分析を進めて、より効果的な支援の在り方について検討した。
- 若者サポートステーション、青少年活動センターと支援連携のあり方について検討を進め、居場所事業(中京センター:街コミ)、及び親相談(サポステ:親こころ塾)事業を協働により実施した。
- 地域協議会におけるひきこもり支援部会設定(平成25年度)に向けて、事前協議を行った。

(5) 指定支援機関職員の人材育成

- 支援コーディネーターが下記の研修会等に参加した。

研修名	主催	参加時期	参加人数
第20回日本社会福祉士会全国大会	日本社会福祉士会	6月	1人
日本学校ソーシャルワーク学会 第7回大会	日本学校ソーシャルワーク学会	7月	1人
自閉症eサービス専門講座「就労への支援」(全3回)	自閉症eサービス	7~9月	1人
子ども・若者総合支援研修(9, 11, 1月, 全3回)	京都市・子ども若者支援地域協議会	9月	6人
子ども・若者支援ネットワーク研修静岡(第2回) 「社会的困難を抱える若者キャリア支援の実践と課題」	内閣府(静岡県立大学)	9月	2人
不登校フォーラム	京都市児童生徒登校支援連携協議会/京都市教育委員会	11月	1人
不登校解決セミナー in 京都	不登校支援センター	11月	1人
こころの健康講座「思春期・青年期の心をどう支えるか」	こころの病のある人が地域で安心して暮らせるようにする会	11月	1人
子ども・若者支援ネットワーク研修静岡(第5回「貧困と若者支援」)	内閣府(静岡県立大学)	12月	1人
困難を有する子ども若者の相談業務に携わる民間職員研修	内閣府	1月	1人
相談援助職のための面接技法研修	京都社会福祉士会	2月	1人
社会的ひきこもり支援者全国実践交流会in宮崎	同実行委員会, 全国社会的ひきこもり支援連絡会議	2月	1人
「家族カウンセラー・ピアカウンセラーの大切さ」	オレンジの会	3月	1人
シンポジウム「相談・訪問支援から就労までを考える」	恒河沙	3月	1人

(6) 京都市ユースアクションプラン認証事業

青少年育成団体やNPO団体等が実施する、子どもから大人へと成長する青少年を支援する取組に対して、「京都市ユースアクションプラン」の主旨に基づくものを京都市が認証する制度。

- ユースアクションプランの趣旨に合致する取り組みの事業申請募集を行った(認証件数167事業)。
- ユースアクションイベントガイドを発行した(年4回/各4500部発行し約300か所に配布)。

2. 京都若者サポートステーション受託事業

一定期間無業の15歳から概ね40歳までの若者に対し、職業的自立に向けた支援を行うため、厚生労働省及び京都市から委託を受けて運営した。平成24年度は、支援の出口として農業を使った「中間的就労」事業に新たに組み込むとともに、支援の入口に当たる個別対応を事業化した。

(1) 相談支援事業(国費・市費)

①電話・窓口(インテーク)相談

専門相談につなげる前段階として、関係づくりを行いながら本人のニーズを見出したり、課題を整理する個別相談を行った。

②キャリア相談(国費/火・金・土曜日に実施)

キャリアコンサルタントによる職業選択や職業能力開発等の相談を行った。

③こころの相談(市費/月・水・木曜日に実施)

臨床心理士によるこころの悩み等の相談を行った。

④保護者相談(国費/第1木曜 第3, 4土曜日, 金曜日実施)

キャリアコンサルタントによるわが子の自立に悩む保護者の相談を行った。

(2) 居場所事業(市費)

①「ちょっと体験ちょっと交流」

コミュニケーション能力や就業意欲の向上を目的に、就労を意識したプログラム及び交流をメインとした振り返りを行った。プログラム内容は効果的な笑顔の作り方, 市内清掃, 封入作業, 挨拶の練習などを行った。

(3) 就労体験事業(市費)

働くことを体験することで、自分の強みを意識したり、働く自信をつけたり、働く中での課題を意識することを目的として以下のような就労体験事業を行った。

①「野菜づくりから仕事に近づく」(中間的就労の場づくり事業)

* 農業を使った中間的就労事業。生産から販売までを体験する事業を実施した。

②「アジプロ(あたまと体をつかって働くことを実感するプログラム)」

* 青少年活動センター内で喫茶, 事務職体験の事業を実施した。

③「アジプロ」セカンド

* 宇多野ユースホステルで継続した就労体験を実施した。期間は一ヶ月間で週3回以上行った。

④「伝統食カフェ」

* 伝統食の普及団体と連携し、昔ながらの郷土食を調理して販売した。仕事の楽しさを味わうことを目標とした。

(4) 青少年活動センター連携事業(市費)

青少年活動センターと連携して、就労に向けて自らの課題と、強みを意識することを目的とした事業を実施した。

①就労体験につながる事業

* アジプロ(南・下京)/「野菜づくりから仕事に近づく」(北)/「伝統食カフェ」(伏見)を実施した。(再掲)

②「インプロヴィゼーション・ワーク」

* 演劇の手法を用いて、自己表現力やコミュニケーション能力を高めるプログラムとして実施(東山)。

(5) 就活支援事業(市費)

①「自分軸」(将来のビジョン作成)に関するセミナー

* 現在の自己イメージを明確にし、自分の強みや価値観などを考え将来ビジョンを作成し、現時点でできる事を確認することをねらいとして実施した。

②「緊張ってなに? リラクゼーションを知ろう」(リラクゼーションに関するセミナー)

* 就職活動等でのストレスや緊張に対する対処法を身につけることを目的としたセミナーを実施した。

(6) 保護者支援事業「親こころ塾」(市費)

わが子との関わり方について学ぶことを目的とした講座を実施した。わが子への理解を深めるために保護者とひきこもり経験のある若者との交流会を併せて実施した。子ども・若者支援室との連携で運営を行った。

(7) 高校中退アウトリーチ事業(国費)

市立高校4校(洛陽工業, 伏見工全・定, 西京定)にキャリアカウンセラー等を派遣し, キャリア相談や就労に関する講座を通して, 学校卒業・中退後の支援につなげるための活動を行った。

(8) サポステ周知事業「出前相談会」(市費)

遠方から来所が困難な方のために地域の施設等で出前相談会を実施した。平成24年度は新たに, 京都産業大学で実施した。

事業一覧

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ)	備考(実施場所等)
(1) 相談事業				
電話・窓口相談	通年		(3123)	サポステ
こころの相談	〃	—	(488)	〃 ・ジョブパーク
キャリアの相談	〃	—	(364)	〃
保護者の相談	〃	—	(221)	南センター
(2) 居場所事業				
ちよつと体験ちよつと交流	通年	29	121	サポステほか
(3) 就労体験事業				
野菜づくりから仕事に近づく	9/3~12/9	53	11(524)	サポステ・北センター・岩倉農園
アジプロみなみ(喫茶)①	5/21~7/9	9	3(23)	南センター
アジプロみなみ(喫茶)②	9/24~11/12	8	3(17)	〃
アジプロみなみ(喫茶)③	1/28~3/18	8	4(30)	〃
アジプロしもぎょう(事務)	8/21~10/2	7	3(21)	下京センター
アジプロセカンド	通年	14	1(14)	宇多野ユースホテル
伝統食カフェ	12/7~1/28	6	6(36)	伏見センター
(4) 青少年活動センター連携事業				
野菜づくりから(再掲)				サポステ・北センター・岩倉農園
アジプロ(再掲)				南センター
アジプロ(再掲)				下京センター
伝統食カフェ(再掲)				伏見センター
インプロヴィゼーション・ワーク	11/6~12/11	6	6(25)	東山センター
(5) 就労支援セミナー				
自分を知って仕事に就こう ①	7/13~27	3	11(26)	中京センター
自分を知って仕事に就こう ②	11/13~17	3	8(24)	中京センター
自分を知って仕事に就こう ③	2/12~26	3	4(12)	中京センター
自分を知って仕事に就こう ③	2/26	1	12	中京センター(全体会)
緊張ってなに?	2/9~16	2	12(23)	中京センター
(6) 保護者向け事業				
親こころ塾①	5/13~6/24	4	21(58)	中京センター(ゲストスピーカー含まず)
親こころ塾②	10/7~11/18	4	22(81)	中京センター(〃)
親こころ塾③	2/3~3/17	4	28(73)	中京センター(〃)
(7) アウトリーチ事業				
中退者支援(学校訪問)事業	通年	288		
洛陽工業(全日制)		86	(577)	
伏見工業(定時制)		59	(35)	
伏見工業(全日制)		77	(25)	
西京(定時制)		66	(71)	
キャリアセミナー		67	(1543)	4校合計
面接指導			97	4校合計
(8) 出前相談		4	16	京北町, 淀, 醍醐, 京都産業大学

3. 中学3年生学習支援事業の受託(京都市保健福祉局/福祉事務所)

京都市保健福祉局からの委託により、生活保護世帯において進学を目指す中学生(特に3年生)を対象として、学習支援を行う取組を実施した。BBS会京都地区及び地域のNPO等団体の協力を得て、大学生を中心とするボランティアが、中学生の学習や相談相手となりながら、学習支援を行った。

保健福祉局・福祉事務所と協力しながら、平成24年度は、新たに2地域(南・洛西)で実施した。

<各地域での実施状況>

実施場所	参加者 (登録者)	ボランティア 及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	10人	10人	毎週火曜日	BBS会と連携
伏見青少年活動センター	11人	9人	毎週火曜日(10月から月曜に変更)	BBS会と連携
山科青少年活動センター	34人	10人	毎週金曜日(12月から月曜にも実施)	NPOと連携
南青少年活動センター	5人	11人	毎週木曜日	単独運営
洛西(スコーレ)	22人	9人	毎週金曜日	地域団体と連携

※ 洛西地区での実施は下京青少年活動センターがボランティアのコーディネートを行った。

4. 地域若者サポーター活用事業

- 定期的な情報提供(4回)
 - *協会広報誌とともに、サポーター通信(サポーター活動状況、センター事業に関する情報)を届けた。
- 全体での交流会(研修会)の実施(2回)
 - *「話を聞く、思いを伝える」をテーマにワークショップを行った。講師:吉津万夕美氏(サポステ専門相談員)
 - *「話の聞き方、返し方」をテーマにワークショップを行った。講師:吉村夕里氏(京都文教大学准教授)
- 子ども・若者に関わる研修情報の提供(不定期)
 - *ユースシンポジウム, ユースワーカー養成講習会など, 学びの機会の情報を提供した。
- センター・サポステでのボランティア情報を提供し, サポーターの協力を得た。
 - *サポーター通信とあわせて「センターではこんな人を求めています!」を発行(4回), 希望者には随時情報を配信した。(不定期)
 - *全青少年活動センターに担当ワーカーを置き, 各ブロックとのやりとりを丁寧に行った。
- 各ブロックと協働の取組を実施した。
 - *各青少年活動センターに担当ワーカーを置き, 各ブロックと若者の居場所作り支援・世代間交流につながる事業を企画, 実施した(共催)。

事業一覧

事業名	実施期間	回数	のべ人数	備考(活動内容)
-----	------	----	------	----------

<研修会の実施>

情報交換&交流会①	11/3	1回	26	「話を聞く、思いを伝える」ワークショップ
情報交換&交流会②	3/30	1回	26	「話の聞き方、返し方」ワークショップ

<センター・サポステ事業へ協力>

ごぶSAT(北)	1/26	1回	1	プログラム進行補助
伝記作成プロジェクト(北)	8/24	1回	1	文章添削
卓球フリータイム(北)	3/1, 3/16	2回	3	卓球の相手
立ち直り支援(北)	3/10	1回	2	清掃活動
野菜づくりから仕事に近づく(北)	9/3~12/9	22回	38	農作業補助
何でも質問BOX(中京)	通年	2件	2	質問へ回答
創造活動室の開放事業(東山)	7/21~3/28	32回	57	ものづくりのサポートなど
アトリエC(東山)	3/18~3/22	3回	6	地域住民と青少年の交流を促進
やませいまつり(山科)	11/4	1回	4	青少年ボランティアの補助
山科区民まつり(山科)	11/23	1回	3	ブース出店の補助
ロビー活動(山科)	9月~10月	3回	3	ロビーでの交流のための準備
アジプロ実習(下京)	10/9	1回	1	電話対応実習への協力
アジプロ実習Ⅰ~Ⅲ(南)	7/2~3/11	16回	16	参加者への指導, 助言
学習支援(サポステ)	9/6~3/22	35回	35	マンツーマンでの学習支援。学び直し

<ブロックと協働の取組(居場所プログラム)>

アフタヌーン亭(北・左京・上京)	4月~(月2回)	23回	117	しゃべり場, 料理づくり/北センター
赤レンガカフェ(中京・西京・右京)	6月~(月1回)	11回	56	コラージュ体験, しゃべり場/中京センター
ティーコーナー(東山・山科)	5月~(月1回)	10回	56	しゃべり場/山科センター
ロビーワーク(下京・南)	9月~	2回	2	遊びを通じた青少年との交流/下京センター
はじまるサロン(伏見)	10月~2月	3回	19	保護者向けゲストトークと交流/伏見センター

IV. 北青少年活動センター

全体の動向

周辺大学のダンス系などのサークル利用や事業参加者が伸び、総利用者数は対前年度比7,698人(121%)の大幅増加となった。地域活動推進事業や地域関係機関との連携・協力・共催事業では、青少年に多様な機会を提供し、地域参加を促進した。また、居場所づくり事業や職業ふれあい事業では、青少年の自立に向けた動きを支援し、成果が見られた。

(1) 環境ふれあい事業

① 自然に親しむ事業

○アウトドアを楽しんだり、自然文化を感じるプログラムを実施した。「大文字ナイトハイク」では留学生の参加が多数あった。「水尾柚子絞り体験」では集落内の散策も行き、地域の風習も体感した。

② こしたかクラブ(子ども自然体験活動クラブ)

○青少年が月に2回程度、定期的にミーティングを行い、川あそびやいも掘り、野鳥観察などの自然に触れ学ぶ体験ができるプログラム(小学生対象)を企画運営した(計4回)。

③ かんきょうサロン

○NPO法人環境市民の協力を得て、環境について学ぶ講座を企画したが、人数が集まらず中止となった。しかし、環境団体との関係をつくる機会になった。

④ 農業にふれよう。

○青少年が月に2回程度、定期的に田んぼや畑に出向き、田植えや稲刈りなどの体験をしながら、農作業についての学びや、自然や食物の大切さを知る機会になった。

○センターでの野菜のプランター栽培と収穫に取組み、野菜を種から育てる喜びを感じることができた。また、すぐきを剥く体験(収穫した野菜の保存の仕方)や、薪割りなどの新しい体験も行った。

(2) 地域活動推進事業

① 自主活動支援事業

○青少年による自主的な企画を実施するために必要な支援協力を行った。登録グループは、カフェピース(居場所づくり)、BBS(中3学習支援)、ボランティアチームCSA(京都産業大学環境系ボランティアサークル)、寺子屋共育軒(子どもの居場所・学習の場づくりのNPO)の計4件。

○登録グループとセンターのボランティアグループのメンバーを対象に、今後の活動に役立つ研修を、講師を招いて実施した。(7グループの計23名が参加)

② 地域活性ボランティア

○地域の環境団体(日本環境保護国際交流会)と月1回、定期的に紫明通りの清掃活動を行った。

○北区役所のふれあい事業(区民まつりや夏まつり)に参加協力したり、地域のイベントのブース出展や運営会議にも参加した。(新大宮夏祭り、紫野まつりなど)

③ 伝記作成プロジェクト

○ボランティアが、周辺地域や福祉施設の高齢者から人生のお話を聴き取り、伝記(冊子)としてまとめて、敬老の日に贈呈した。高齢者から人生経験などを聞くことにより、多くの学びや発見・刺激があり、青少年自身の生き方などを考える機会になった。

④ サンタがきた♪(サンタクロース・プロジェクト)

○ボランティアが、クリスマスイブの夜にサンタやトナカイに扮して、保護者から事前に預かったプレゼントとパフォーマンスを届けた(訪問家庭25軒)。また、平成24年度は4名のインターン生を受け入れた。子どもの喜びや笑顔にふれることで、ボランティアは高い満足感と達成感を得た。

○児童館(2ヶ所)と高齢者福祉施設(2ヶ所)のクリスマス会にも参加協力し、青少年が地域の資源について知る機会になった。

⑤ 西陣ひと・まち・もの語り

○西陣地域を中心に、街並みや歴史、人々の生活や習慣などをインタビューし文章にして、HPに掲載した。(8件)また、「10選集」を増刷して、各青少年活動センターに設置した。

○まちあるき企画として、「路地裏散策@西陣」を企画実施したことで、ボランティア自身も、より西陣地域の魅力について知る機会となった。

(3) 余暇支援事業

① 居場所づくり事業「ごぶSAT(ごぶさた)」

○毎月第2・第4土曜日に、気軽に参加できるプログラムを実施した。参加者は、コミュニケーションが苦手など、何らかの課題を感じている青少年が多かったが、協同作業などのグループ体験を通じて、対人関係や自立に向けた意欲などに変化や成長が見られた。

② 地域若者サポーター活用事業

○北・上京・左京ブロックと共催し、毎月第2・4土曜日に「アフタヌーン亭」(しゃべり場)を定例で実施した。参加している若者からの意見を聞いて、「料理の会」を実施した。(2回)
○「伝記作成プロジェクト」の文章添削や「職業ふれあい事業」の畑作業、「きたせいフリータイム(卓球)」に協力をいただいた。

③ 相談・情報提供事業

○件数は前年度とほぼ同数(+8件)であるが、回数が大幅に増加し(+129回)、継続相談が増えた。困難な相談には、複数のワーカーが連携して対応した。

(4) 利用促進事業

① eat * mo 倶楽部(いいともクラブ)

○「食」に関する事業を料理室で実施した(年4回)。利用促進に加えて、環境や異文化についての理解や交流なども目的として実施した。

② ☆きたせいフリータイム

○多目的ホールに卓球台を設置して、7月から予約なしでも卓球が気軽にできる時間を設けた。
○青少年が、集中して勉強するために自習室を開放し、センター利用の入口機能を果たした。

③ ☆広報充実事業

○北区内の大学ボランティアセンターが主催するボランティア説明会で、ブース出展を行い、新規ボランティアを獲得した(京都産業大学、立命館大学、佛教大学、計3回)。
○センター内でのボランティア説明会を開催。(春・秋の2回)

(5) 地域関係機関との連携・協力・共催事業(つながる事業)

① HIV・性感染症予防啓発事業、若者しゃべり場(保健センターと連携)

○北保健センターと若者と事前準備をしながら、事業「北こみフェスタ」内で、クイズや展示で予防啓発を行った。また、即日検査(無料)も実施し、13件の受診があった。

② ボラセンネットワーク (社会福祉協議会と連携)

○ネットワーク会議(全7回)を通じて、北区内の4大学(京都産業大学、立命館大学、佛教大学、大谷大学)のボランティアセンター担当者同士が顔の見える関係を構築した。
○シンポジウム「学生パワーが活かせる福祉のまちづくり」を共催し、「地域活性ボランティア」のメンバーが、学生からの視点で、地域でのボランティア活動について発表する機会が得られた。

③ 北やんフェスタ(北文化会館と連携)

○ステージ部門・ブース部門からなるイベントを北文化会館で実施した。センター利用者に呼び掛け、ダンスやバンド、コーラス、演劇、武道など、ステージ12組、ブース4組が出演した。当日は、254名の来場者(出演者含む)があり、本格的なステージに立ち、日頃の活動の成果を発表することで、出演者の達成感や向上心につながった。また、交流会を設定し、グループを越えた交流ができた。

④ 北こみフェスタ(北区身体障害者団体連合会と連携)

○センター全館をつかって、青少年が活動を発表したり、障がいのある地域の人と交流をしたりするイベントを企画実施した。事前に、実行委員会(計7回)や出演者出店者にむけてのオリエンテーションを実施し、「障がい」について理解し、学ぶ機会をつくった。当日は、112名の来場者があった。

⑤ 職業ふれあい事業「野菜づくりから仕事に近づく～働きながら、働く事を考える14週間～」

○中間的就労の場として、野菜づくりの一連の流れ(畑づくりから種まき、水やり、収穫、販売まで)を体験し、自分の強みを考える機会をつくった。参加者11名中、8名が就労(アルバイト含む)や進学などの進路が決定した。

事業一覧

事業名	実施時期	回数	参加数／のべ	備考(実施場所等)
自主活動支援事業 (MAP, CSA, 轍, カフェピース)	通年	13	のべ64	
自主活動支援事業(研修)	10/5	1	23	
自主活動支援事業(BBS) 中学3年生学習支援プログラム	通年 (毎週火曜)	47	参加者 のべ182 ボランティアのべ226	
自然に親しむ事業 ①「大文字ナイトハイク★」 ②「水尾のゆず満喫プログラム」	①10/27 ②11/24	2	① 8 ② 10	①大文字山 ②水尾地域(右京区)
こども自然体験活動クラブ(ミーティング) (子どもとのプログラム) ①「探検!かもがわハイキング」 ②「でかけよう!さつまいも掘り!」 ③「見つけよう!冬の野鳥たち!」 ④「鞍馬山を探検に行こう!」	通年 ①7/29 ②10/14 ③12/9 ④3/3	25 4	8(120) のべ33	①柘野地区鴨川 ②長岡市観光農園 ③桂坂野鳥遊園 ④鞍馬山
農業にふれよう。	通年	21	のべ78	岩倉長谷(畑作業等) 滋賀県仰木(田植え)
地域活性ボランティア(清掃活動)	通年 (毎月第1土曜)	12	参加者 のべ179 ボランティアのべ47	紫明通り
地域活性ボランティア(ミーティング)	通年	14	のべ101	
地域活性ボランティア(地域活動)	通年	7	のべ860	
憲法月間街頭啓発/北区民春まつり/新大宮夏祭り/ 区民金魚とり大会/FUNAOKA STANDARD/ 紫野まつり				北大路タウン/船岡山公園/ 新大宮商店街/紫野小学校/ 西加茂橋東岸橋
伝記作成プロジェクト ① 研修会 ② 交流会 ③ 贈呈式	①5月~8月 ②6/4 ③9/17	6	のべ101	
伝記作成プロジェクト(聞き取り)	5/28~9/17	53	20(177)	
サンタがきた♪(ミーティング, 打合せ)	7月~12月 (毎週月曜)	57	34(482)	
サンタがきた♪(施設訪問) 紫野児童館/(特養)こぶしの里/紫竹児童館/ 北区老人福祉センター	12月	4	のべ150	
サンタがきた♪(家庭訪問)	12/24	1	146	
西陣ひと・まち・もの語り(ミーティング)	通年	44	8(172)	
西陣ひと・まち・もの語り(聞き取り)	通年	13	のべ16	
ごぶSAT	通年	24	のべ148	
eat*mo倶楽部(いいともくらぶ) ①「かんたんヴィーガンスイーツ」 ②「有機農家のカレー教室」 ③「X'mas Cakeを焼こう!」 ④「韓国の旧正月料理」	①7/7 ②10/21 ③12/2 ④2/16	4	のべ37	
北こみフェスタ (会議, オリエンテーションなど)	10/29~ 3/25	32	のべ247	
北こみフェスタ	3/17	32	112(982)	

東山青少年活動センター

全体の動向

平成24(2012)年度の利用者数は、前年度に比べ事業参加者数が4,914人増加。施設利用者数は微減のため、全体では4,911人の増加となった。事業面では、「東山アートスペース」の事業実施10周年を記念して行った、作品展や写真展、館外でのイベントの実施が全体の利用者数の増加に影響した。また、「学校との連携プログラム」だけでなく、「東山フェスタ」や「ココロからだンス」、「アトリエC」など個別の事業において、地域団体や関係機関との新たな連携を生むことができた。広報面では、フェスタなど募集チラシの印刷数を増やして広報エリアを広げ、ホームページやブログでの活動発信に加え、新たにFacebookページを運用し、センターの認知度向上に努めた。

(1) 就労支援に関わる事業

① 働く気持ち応援ワークショップ「インプロヴィゼーション・ワーク」

○無業の状態の続く青少年への支援プログラムとして、演劇やダンスのトレーニング方法を応用した、自己表現・コミュニケーション訓練を行なった。参加者は、自己開示、現実認識を進め、自己理解を深め、サポステや次のステージへの計画等具体的な発言が見られるようになった。参加者数6名と少なかったことは、開催時期が11月からということもあり12月就職活動解禁の大学生の参加が得られなかったことや支援機関からの参加もなかった事が大きく響いた。

(2) 連携事業

① 地域(団体)・NPOなどとの連携プログラム(共催事業)

○区地域力推進室や東山区社協、福祉機関、NPO(音楽関係)と協働し、障がい者の音楽イベント「スマイルミュージックフェスティバル」を実施した。また、個別の事業において、京都女子大学、東山区保健センターや区社協、東山エコまちステーション、東山いきいき市民活動センター、清水児童館などの団体と連携・協力を得ることができた。

② 学校との連携プログラム

○市中学校教育研究会演劇部会(中劇研)の合同公演とドラマスクールへのサポート、京都橘大学(文化プロデュースコース)のスタッフワーク研修など、ボランティアやアーティストの協力を得て行った。また、高劇連の合同公演の他、高校生の自主公演づくり(鳥羽高校+桂高校演劇部の公演、鴨沂高校+同志社高校演劇部の公演)のサポートを行った。

(3) 余暇活動支援事業

① 東山アートスペース

○知的な障がいのある青少年の余暇活動(アトリエ活動)を実施した。新たな若手アーティストにナビゲーターとして協力を得て実施した。
○8月には市民が参加できるイベントを実施した他、事業実施10周年を記念した事業(作品展、写真展、館外でのイベント)を3月に実施し、活動の周知と知的障がい者との交流を図った。

② 表現活動へのお誘い～からだではなそう～

○知的な障がいのある青少年の余暇活動の充実を目的とし、ダンサーやボランティアの協力を得て実施した。新規の参加者、ボランティアが加わったこともあり、ナビゲーター、アシスタントのサポートのもと、雰囲気慣れと共に参加者、ボランティアの関係性をより良く築けるような体制で行った。
○前年度の活動の写真を展示した記録展をロビーにて1か月間行うことで、活動の周知を図った。

(4) 創造体験事業

① 演劇ビギナーズユニット

○初心者対象の演劇プログラムで、初めて出会う仲間と集団創作し、最後に修了公演を実施。公演づくりの機会提供と、様々な困難を乗り越えて得られる達成感や充実感の獲得、また、様々な価値観にふれることや集団創作の楽しさや難しさ、他者と共同作業を行う中で得られるコミュニケーションスキルの向上、自分の課題にチャレンジすることなど、自分づくりに欠かせない実体験が得られる機会を提供することができた。公演入場者数が過去最多(359人)となった。

② 「ココロからだンス」ワークショップ

○初心者対象の創作ダンスプログラムで、初めて出会う仲間と集団創作し、最後に修了公演を実施。公演は初めての試みとして、観客が3つの会場を自由に観て廻るスタイルを採用。観客には、創作ダンスの楽しさや、より身近なものとしてのダンスを感じてもらえた。公演終了後の最終ミーティングでは、参加者それぞれに、小さな変化ではあったが、自分のからだに対する認識の変化や自分の性格的なことへの捉え

かたの変化,さらには,ひととの関わり方に関する変化が生まれたことが確認できた。

(5)若者文化発信事業

①ステージサポートプラン(22グループをサポート/YU'Z 利用はのべ45グループ)

- 日々の活動成果を発表する場の提供として実施。グループの経験や公演目標などに合わせて,幅広くサポートすることができた。
- 「YU'Z」(発表・公演前のグループへの練習場所提供)も前年度同様の応募数が得られた。また,教育関係者を対象に,創作ダンス指導のためのダンスユニットによる連続ワークショップを実施。「児童の緊張をほぐし,集中力を高めることにダンスを活用したい。」という動機での参加者もみられた。
- 創活番(創造活動室での活動支援ボランティア)の養成講座と,現場体験プログラムを実施した。

(6)居場所づくり事業

①東山コトハジメ

- クレイアニメづくりを通した中高生の居場所づくりを目的に,ボランティアの協力を得て実施。5月には「東山区ふれあいひろば」に,活動センターのブースを設置し,市民の方にクレイアニメづくりを体験してもらった。7月,12月,2月に全4~5回の連続したプログラムを行い,クレイアニメを使用したプロモーションビデオを作成した。仲間と一緒に一つの作品をつくるという過程を経験することで,居場所となることを目指した。クレイアニメ作品をホームページや動画配信サイトへ投稿し,周知を図った。

②陶芸教室,その他のものづくりの楽しさを実感する短期教室の開催(自主事業)

- 陶芸2回,ガラス1回,ハンコづくり1回のワークショップを実施した。実施回数を2~7回の連続講座にすることで,参加者同士が出会い,交流する機会を提供した。事業終了後も参加者たちが他の事業に参加する姿がみられている。

③アトリエC(旧東山アートスペースCコース)

- 知的な障がいのある青少年の余暇活動を支援し,作品展示などで積極的に外部発信を行う活動として実施。秋には近隣のカフェで「アトリエC:autumn 展」を行った。また,春には「東山アートスペース10周年記念事業」の一環として「AfteRnoon Tea 展」を実施。京都女子大学と東山区社会福祉協会,東山区地域力推進室が行っている見守り支援事業と連携し,サテライト会場での作品展,交流イベントを行った。知的障がい者やスタッフとの交流が効果的な活動の周知と,展示作品を介した地域住民との緩やかな関係づくりに繋がった。

④ヒガシヤマ DE ものづくり

- 創造工作室の利用促進と利用者相互の交流をねらいとして実施した。定期的に個人利用者と,小グループが陶芸などの創作活動の場として利用した。後期からは地域若者サポーターの協力を得ることで,初心者や初めて訪れる青少年にも敷居の低い場となり,居場所機能の向上に繋がった。

(7)PR事業

①ホームページの管理運営・情報発信(施設,表現活動,ものづくり)

- ホームページのコンテンツの充実を図るとともに,情報誌「ヒガシガン」による,定期的な情報発信を青少年ボランティアの参画により行った。また,ブログを使った日々の活動報告,ロビー空間を有効に使った情報発信などを行った。Facebookページの運用を始め,ホームページやブログへの誘導を行った。ブログのアクセス数は大幅に伸び,年間の閲覧総数は243,006カウントとなった。

②東山フェスタ

- 夏休み期間中,広く市民の方々が参加できる,ものづくりや表現活動を中心とした,全23のプログラムを実施して,センターの認知度を高める取り組みを行った。平成24年度は募集チラシをダウンサイジングし,印刷部数を13,000部と,例年より大幅に増やして幅広く広報した。また,企画については,新たな若手アーティストやグループの協力が得られた。

(8)担い手育成に関わる事業

- 京都橘大学(文化プロデュースコース)のスタッフワーク研修の開催。
- 「東山コトハジメ」の担い手,「ヒガシガン」編集スタッフ,創造活動支援のスタッフ,「東山アートスペース」などのボランティアスタッフを育成した。

(9)ロビープログラム

青少年が立ち寄りやすい雰囲気づくり、ロビー空間を使ってできる利用者とのコミュニケーションを工夫した。また、ロビーギャラリーとして「東山アートスペース」や「表現活動へのお誘い」、「東山フェスタ」などの作品や活動記録の展示を行った。

(10)相談・情報提供事業

グループ内での課題達成や人間関係について、また、職業選択や将来についてなど青少年の多様な相談に応じた。相談件数は、292件と前年度と横ばいであった。「活動内容・余暇の過ごし方」、「進路・就労などの生き方」に関する相談が多く寄せられた。

事業一覧

事業名	実施期間	回数	参加数(のべ)	備考(実施場所等)
ステージサポートプラン	4/16～3/31	156	(5120)	ボランティア含
YU'Z	4/1～3/31	237	(1887)	
東山アートスペース(2コース)	6/10～9/16	18	33(1191)	ボランティア含
お試しプログラム	5/20	1	23(63)	ボランティア含
夏イベント	8/26	1	14(25)	ボランティア・保護者含
春イベント	3/17	1	13(48)	ボランティア・保護者含
作品展展示	3/19～4/7	18	(1540)	東山区総合庁舎展示ホール
外部イベント(写真展示)	3/11～4/5	22	(530)	
表現活動へのお誘い～からだではなそう～	5/19～3/16	20	40(832)	ボランティア含
写真展	4/23～6/9	31	(640)	
演劇ビギナーズユニット2012	5/24～9/6	86	17(1626)	自主練習, ボランティア含
修了公演	9/1・2	3	452	出演者含
学校との連携プログラム				
①高劇連中部支部演劇ワークショップ	5/13	1	114	ボランティア含
②中劇研照明・音響講座	5/26	1	64	ボランティア含
③京都橘大学スタッフワーク研修	5/12・13	2	27(57)	ボランティア含
④中劇研春の合同公演	6/1～6/10	9	110(1148)	リハーサル・本番含
⑤ドラマスクール	7/23・24	2	57(114)	
⑥高劇連照明・音響講座	1/13	1	76	ボランティア含
⑦高劇連中部支部冬の合同公演	1/14～1/20	6	80(866)	リハーサル・本番含
東山フェスタ2012	7/16～9/9	28	(1779)	ものづくり・表現活動など23企画
就労支援～インプロビゼーション・ワーク～	11/6～12/11	6	6(25)	
ココロからだダンスWS 2012	11/29～3/7	62	10(729)	自主練習, ボランティア含
修了公演	3/1・2・3	3	(147)	
東山コトハジメ	7/20～3/23	14	10(250)	ボランティア含
自主事業 アトリエC	6/24～2/24	8	13(90)	
外部イベント(前年度作品展)	4/3～4/15	11	(1012)	ギャラリー@KCUA
外部イベント(秋の作品展)	10/21～11/11	10	(720)	前田珈琲・京八坂(カフェ)
外部イベント(春の作品展)	3/16～3/26	8	(1128)	クリスタルルーム, ひだまり, お茶の間ハウス
自主事業 ものづくりワークショップ1	6/1～6/22	4	10(66)	
自主事業 ものづくりワークショップ2	9/25～11/6	7	8(9)	
自主事業 ものづくりワークショップ3	2/5～3/5	15	19(456)	
自主事業 ヒガシヤマDEものづくり	4/5～3/28	77	(290)	地域若者サポーター含
ロビーギャラリー	4/23～3/31	305	(6529)	アートスペースの常設展, ものづくりワークショップの作品展など

山科青少年活動センター

全体の動向

若者の抱える課題や困難を軽減し解決につながるしくみづくりを、地域の様々な人々・団体と協働して取り組んだ。特に10代の若者たちが、地域活動に参加する機会や大学生をはじめとした大人と交流できる機会を積極的に提供し、彼らの成長を支えることを目指した。

(1) 課題解決につながる事業

① ユースサポート学習会(若者支援学習会)

○龍谷大学の協力を得て、地域住民・団体の関係者と山科区域における青少年の課題抽出と共有を行う「ざっくばらんサロン」を8月に実施した。その後、出席者を対象にインタビュー調査も実施し、次年度の活動の方向性を確認した。

② やましな中3勉強会

保健福祉局と連携し、生活保護受給者世帯の中学生を対象とした勉強会をNPO法人山科醍醐こどものひろばとの協力で運営した。
○参加希望者が多く、サポーターとの一対一での指導が難しくなったため、複数同時の指導に加えて、12月より週2回の実施回数を増やすなどの工夫を行った。
○サポーターを含め多様な大人との出会いにより、学習だけでなく、相談ごとや身近なロールモデルを提供することができた。

③ ☆レンアイリョク向上プログラム

ロビーで過ごす10代の青少年を対象に、恋愛や性に関する情報や相談の機会を提供、デートDV(恋人間の暴力)やHIV/AIDS予防啓発のための取り組みを行った。
○セクシャルヘルス専門相談員によるロビーワーク、京都橘大学での出張プログラムを実施した。
○山科保健センターの協力によるHIV/AIDS予防啓発事業を実施した。

(2) 自立支援促進事業

① 地域若者サポーター連携事業

地域若者サポーターが月1回、ロビーで喫茶を運営し、ロビー利用者との交流を図った。

(3) 担い手養成事業

① ロビーワーカーの養成と活用

京都中央地区BBS会の協力を得て、中高生への日常的な関わりを行うロビーボランティアグループ(愛称ロビーズ)の運営を行った。継続的に参加するメンバーはいたが、安定して運営するだけの人数を確保することはできなかった。

② 学習支援サポーターの養成と活用

中3勉強会にて活動するボランティア(学習サポーター)の募集と養成を行った。学習支援だけでなく、勉強会の運営や支援方法などについても積極的な関わりがあった。

③ 実習生・インターンシップの受け入れ

○立命館大学大学院応用人間科学研究科 インターンシップ2名
○立命館大学サービスラーニングセンター シティズンシップスタディーズ8名

(4) 青少年活動センターのリソースを活用した事業

① 地域関連共催事業

あそび隊、NA響、手話講座、点訳講座、たちばな倶楽部(日本語教室)、めくるめく紙芝居、運営協力会事業(少年野球教室)、区民まつり等への協力を行った。

② 地域活動促進事業

○青少年と地域住民が交流できる「やませいまつり」を実施
○山科三条街道商店会、地域福祉施設と共同で「ぐるっとふれ愛まちフェスタ」への参画。

(5) 地域参画促進事業

① 山科ユースアクション関連事業(社会福祉協議会主催)

夏休み期間を活用してボランティア体験を行う中高生に事前、事後研修のコーディネートを行い継続的な活動の機会の提供を目指したが、結びつけることはできなかった。

② ユース提案事業

「尺八教室」「そでふれ教室」など地域住民が参加できる企画を青少年たちが実施する手助けを行い、多様な層の人々の参加を促し、交流する機会を持つことができた。

③ 若者発信(若者が発信する21世紀の山科まちづくり)

山科区の中高生徒会や地域活動を行う青少年の活動発表の場、そして地域住民と意見交換する機会を持つことができた。

④ 地域清掃活動への参加

- 山科区地域一斉清掃、河川清掃へ中学生他の利用者と参加した。
- サンタに扮した青少年が沿道のゴミ拾いを行う「サンタ大行列」を実施。地域団体・住民の協力を得られたほか、近隣市民からの高い評価を得る事業になった。

(6) 開かれた居場所事業

① 中学生のスポーツタイム

初めてセンター利用をする中学生を対象に利用ルールを知ってもらう機会になった。またロビーズの活動の場になったほか、関わりに配慮のいる青少年との出会いや相談活動につながるきっかけとなった。

② 自習室開放

中学生から大学生、社会人や無職の青少年まで多くの層の利用があった。他者とのコミュニケーションがうまくいかず就労に苦戦している、受験勉強のプレッシャーで緊張が強くなっている、といった青少年との関わりの、入り口としての役割を果たすことができた。

③ 新中学1年生にむけた「やまスタ」配布

山科区内の新中学生全員にクリアケースとリーフレットの配布を行い、新たな利用者の獲得に結びつけることができた。

④ 余暇充実「やませいへico(イコ)」

土曜日を中心に青少年が気軽に参加できるプログラムを提供し、中高生をはじめとして大学生や障がいのある青少年まで幅広い層が参加し、相互交流する機会になった。

事業一覧

事業名	実施時期	回数	参加数(のべ)	備考(実施場所等)
ユースサポート学習会	1/26			
ざっくばらんサロン	8/5	1	29	
聞く力サロン	1/26	1	8	
インタビュー	2月～3月	4	(22)	
中3勉強会	通年	65	24(627)	
レンアイリョク向上プログラム	通年	27	(255)	
地域若者サポーター連携事業	月1回 第3土曜日	10	(454)	サポーターカフェ
担い手養成事業				
ロビーボランティア	通年		14	
インターン, 実習生	通年		10	学部生8名/大学院生2名
学習サポーター	通年		12(509)	
地域関連共催事業				
ちかボ。あそび隊	通年	15	(351)	センター/山科中央公園
アフタースクール洛東	通年	4	(218)	京都中央地区BBS会
たちばな倶楽部	通年 毎週火・金	53	(688)	
NA「響グループ」	通年 毎週木	60	(681)	
やましなふれあい手話講座	6月～8月	5	(100)	
運営協力会「少年野球教室」	1/19	1	(194)	立命館大学柘野グラウンド
めくるめく紙芝居	通年	15	(208)	
地域活動促進事業				
やませいまつり	11/4	1	(2097)	
ぐるっとふれ愛まちフェスタ	11/4	1	(66)	山科駅周辺
地域参画促進事業				
ユースアクション関連事業	7月～8月	3	(124)	
地域清掃	5/27 10/28	2	15	
サンタ大行列	12/23	1	35	山科駅周辺
若者発信	2/24	1	68	
ユース提案事業				
そでふれ教室	通年	5	(94)	
尺八教室	通年	20	(134)	
中学生のスポーツタイム	4月～8月 毎土曜		(222)	
自習室開放	通年	346	(3465)	
やませいへico	通年	20	(538)	

下京青少年活動センター

全体の動向

利用者数は前年度に比べ微減。施設利用は大幅に増加したものの、事業の減少が大きかった。

ロビーや施設利用に関しては、非行や規範意識の薄い中高生の利用が前年度途中から増加し続け、平成24年度に入ってから、それらを含むグループの利用が続いた。そのグループに対しては反社会的な行為を認めず、その背後にある理由に焦点を当て寄り添い、話を聴きながら関係構築を行った。そうした中高生年代の行動に対して、地域住民の不安が高まり、その対策としてセンターの対応や実施している事業などを説明し、周囲の清掃などを行うことで対応した。

また、近隣中学校の補導主任と生徒指導の担当者との定期的な意見交換の場を持ち、どの様に成長を促していけるか話し合った。一方、広報面では、地元との関係づくりの一環として各商店街や企業、学校関係などを回り機関誌の配布など広報を行った。

(1) スポーツレクリエーション事業

① トレーニングルームガイダンス

○トレーニングルームを初めて利用する人を対象にトレーニングルームアドバイザーが中心となりガイダンスを実施。平成24年度から利用者層と年齢に近い高校生を起用し、アドバイザーが在室している時間帯を増やした。

② トレーニングルーム利用活性化事業

○平成24年度から都合の良い時間帯を選択できるようにしたことで、通信制高校や就労しながら夜間学校に通っている青少年が昼の時間帯に利用するなど、幅広くニーズに応えることができた。

③ ストリートダンス教室

○初級/中級と二つのクラスに分けて実施。前期には2つのイベントに出演、後期も2つのイベントに出演した。それぞれ、イベント出演を機に参加者同士で声を掛け合ったり、練習の前後に話をしたりするようになり、ダンス以外の交流も図れた。

④ スポーツルーム・フリータイム

○人気のスポーツルームにおいて、中高生年代を対象に予約無しで使える時間帯を設定し、余暇充実の場となった。また、利用の前後で日常的な話題から相談への繋がりが見られ、継続的な関係が構築することができた。

⑤ ☆しもせいトライアル

○他者との緩やかな交流を目的に「入り口」的な事業と「居場所」的な事業を合わせたプログラムを実施した。日常的にロビーを利用している層を中心にケーキ作りやたこ焼きパーティ、スポーツルームでのボール合戦などを行った。

(2) ボランティア支援(育成)事業「しもせいユースボランティアネットワーク」

① しもせいチャレンジ☆キッズ

○青少年ボランティアが主体的に企画運営を行い、小学生対象のスポーツ体験・自然体験事業を実施した。後期には、定員を大きく超える申し込みを受け開催した。

② ☆居場所ボランティア

○青少年ボランティアが日常的にロビーを利用する中高生に対して関わる事業。登録者数が少ないものの参加者と一緒に体を動かすなど関係性を築くことができた。

③ ☆地域活動ボランティア

○洛西地区の中3学習支援を中心に活動した。学習支援では、参加者もボランティアもモチベーション高く取り組んだ。3月の高校受験では参加者全員が希望する高校に進学した。

(3) 地域交流・地域参画事業

① スタッフ派遣事業“スクランブル”

○「小学校対抗ドッチボール大会」(下京区少年補導委員会)、「下京区ふれ愛まつり」(下京区役所)にスタッフを派遣した。また、光徳学区少年補導委員会から「光徳学区町内対抗ドッチボール大会」の依頼を受けスタッフを派遣。センター近隣における活動の幅が広がった。

②プラン・ドゥ

○MIHO ダンスファクトリーからの申請による「KID'S HIPHOP」を4月から3月まで実施。また、KOBATY.F.Cからの「KOBATY CUP」の開催依頼を受け、5月、9月、11月、3月に実施。

③☆しもせいフェスタ

○3階で青少年グループの舞台発表とフリーマーケット、2階では青少年ブースを設置し全館を使ったお祭りを実施した。また、当日までの期間限定で、商店街に協力していただきウォークラリーを実施し、地域のセンターへの理解を得るきっかけとなった。

(4)地域・団体等ネットワーク及び情報発信事業

①しもせい通信

○近隣の中学校にしもせいの認知を広めるためにパンフレットを作成した。

②地域共催事業

○下京区「人づくり」ネットワーク実行委員会への協力、地域に根ざしたバレーボールリーグ「S リーグ」の実施、その他「レクリエーションインストラクター養成講習会」、「下京歩歩塾(しもぎょうぼぼじゅく)」、「わんわんキッズ」などの地域事業に共催した。

(5)京都若者サポートステーション協力事業

①あたまとからだで実感するプログラム(アジプロ/再掲)

○事務所内において電話受付や窓口対応の就労体験を実施した。各回の終了後には一日をふりかえり、他者からフィードバックを受ける時間を設けることで自分を見つめ直し、就労に向けて次のステップを具体的に考える機会となった。

事業一覧

事業名	実施時期	回数	参加数(のべ)	備考(実施場所等)
トレーニングガイダンス	4月～3月	84	217	毎週木曜日開催
トレーニングジム開放事業	4月～3月	191	63(1367)	毎月・木:体力増強コース 火・金:筋力中心コース
ストリートダンス	4月～3月	60	(601)	毎週土曜日開催
スポーツルーム・フリータイム	4月～3月	128	(1467)	毎週火・木・土曜日開催
しもせいトライアル	7月～2月	6	(53)	
しもせいフェスタ(青少年ブース/フリーマーケット/ステージ)				
しもせいフェスタ準備	5月～9月	37	(228)	ボランティア及び参加者含む
しもせいフェスタ当日	9/29-30	1	443	下京青少年活動センター全館
ユースボランティアネットワーク スタッフ派遣事業	6月～11月	3	(563)	下京区民祭り、下京区少年補導 ドッジボール大会など
プラン・ドゥ				
Kid's HIPHOP	4月～3月	48	(228)	MIHOダンスファクトリー主催
KOBATY CUP	5月～3月	4	145	KOBATY.F.C主催
しもせいチャレンジ☆キッズ				
しもせいチャレンジ☆キッズ(当日)	10月～3月	4	116	京都アクアリーナ、花脊山の家他 ボランティア含む
しもせいチャレンジ☆キッズ (ボランティアミーティング)	4月～3月	48	(200)	
ユースボランティアネットワーク ボランティア説明会	7/12	1	23	立命館大学
バレーボール/Sリーグ(共催)	4月～3月	97	(3486)	
アジプロしもぎょう(事務)	8月～10月	7	3(21)	サポートステーション協力事業

南青少年活動センター

全体の動向

中高生を中心に幅広い利用があり6,593人の利用増、施設稼働率も微増した。中高生対象事業の拡大、ボランティア体験事業、定期的な学校訪問、地域とのつながりづくりを意識した取り組みなど大小含め多様な新規取り組みを行ってきたことが良い結果に結びついたと捉えている。

(1) 地域連携・協力事業(地域とのつながりを深めるための事業)

① 地域連携事業

- 人づくり21世紀委員会、南区こころの健康を考える会、要保護児童対策地域協議会、塔南の園福祉後援会などへの会議参加および事業への取り組みに協力をした。
- 通信「みなみだより」発行にあわせ、南区内5中学校と高校を定期的に訪問し、意見交換など関係づくりを行った。また、一部学校では生徒にわかりやすいようにセンターコーナーを設置した。

② 共催事業

- フリースクールほっとハウス、脱ひきこもり者支援の京都ARUへ共催事業として喫茶コーナーを提供し、登録メンバーの活動の場を提供した。活動を経て、参加者の社会体験や自信につながったとの報告を得た。
- 地域において関わりの深い「塔南の園児童館」の夏祭りにおいて、運営に協力を行った。

(2) 地域連携・協力事業(地域の施設としての認知の向上を目指す事業)

① 児童館等地域施設共同事業

- 「塔南の園児童館」(共催)の他、「洛陽児童館」の地域ふれあい夏まつりにボランティアとともにコーナーの運営を行った。

② フリーマーケット(自主)

- 地域住民がセンターへ来館するきっかけづくりとしてフリーマーケットを実施し、前年度を上回る参加を得た。周辺商店の協力も得て、協賛クーポン・MAPを来場者に発行し地域への還元も試行した。
- センターが主催するイベントとして青少年の活躍の場づくりを目指し、ボランティアが運営するコーナーを増やした他、青少年による「ロビーパフォーマンス」を全ての回で実施した。

③ その他

- 新たに洛南障害者授産所とのつながりにより、授産所の物販機会の場を提供し、一方で授産所が発行する情報誌でセンター事業の広報をしてもらうなどの連携を行った。

(3) 青少年支援者育成事業

① ボランティア育成事業

- 定期的な説明会を行い、居場所づくり事業を中心にスタッフ募集を行い、前年度を上回る登録を得た。
- ボランティア研修を実施するとともに、活動終了時に個々の面談による聞き取りを行い、それぞれの活動を経験として蓄積できるようなフォローアップを行った。

② インターンシップ・実習生受け入れ事業

- ボランティア実習、社会教育実習、ユースワーカー養成実習などを受け入れた。

(4) 課題別支援事業

① レンアイリョク向上委員会

- 月1回、専門家によるセクシュアルヘルス啓発活動を実施したが、センター利用者の変化に伴うニーズの変化と合致せず、事業の見直しを行った。
- 世界エイズデーに関連したエイズ啓発プログラムを行い、従来の関係セクションに加え京都市担当局・南区保健センターの協力を得た他、他センターとも連動・連携した取り組みを実施し、前年度を上回る参加を得た。
- 「AIDS文化フォーラムin京都」への担当職員の派遣の他、ライブキッズにおける啓発コーナーの企画・運営を他センターと協力して実施した。

② 個別対応事業

- 他者との関わりに課題を抱える青少年と個別に作業やワークを実施。センター内就労体験やボランティ

ア活動への参加など、行動できる幅や人間関係に広がりが見られた。

- (ちょっとしごと体験)個別対応事業参加者の次のステップとして実施。自身の将来や就労に不安を持つ青少年を対象に、センターの施設運営の仕事(手伝い)をすることで、対価を支払い役立ち感と自信を得てもらうことを目指した。1名の参加。

③みなみ中3学習サポート(中学3年生学習支援事業)

- 学習会を南区でも実施。自らの意志で意欲的、継続的に学習し続けることが難しいと思われる中学生など5人の登録があった。内2人がコンスタントに参加し続け、高校に進学したことの確認を得た。

(5) 青少年の余暇活動支援

①20代話せるプログラム

- 飲食を通じて20代の居場所づくり・交流プログラムとして通年で実施。他者との空間に慣れることを目的とした青少年から、実質的なつながり(友人)作りを目的とした青少年まで幅広い参加が見られた。
- 学生、留学生、既卒者無職、社会人、転職活動中など幅広い参加者が集まる中で、異なる価値観や人生経験を共有しあうなど、参加することで新たな経験を得たという感想が寄せられた。

②ボランティア体験 VoM's(ボムズ)

- 気軽にできるボランティア活動として、地域清掃活動をはじめに各種センター事業(フリーマーケット、ロビープログラムなど)や地域関係団体の事業(児童館夏祭り、区民まつり)などに参画し部分的な運営を行った。

③ロビー喫茶

- 中高生を主な対象に、落ち着いた時間を過ごし日常の出来事について話せる場所として運営。また、自習のフォローもしてもらえるなど“中・高生の居場所”として機能した。大学生ボランティアを中心として週2回実施。
- 「バレンタイン」や「受験生応援」などのテーマ設定喫茶、定例の活動に加えてかき氷販売やセンター内のイベント時などを開催したことが、参加者数の増加につながった。

④ロビー利用型事業

- 卓球大会、夏休み・冬休みプログラムなど青少年が気軽に参加できるプログラムを実施した。
- ロビーを中心とした「夏まつり」「新年まつり」を初実施。地域住民など多くの参加が得られた。
- 青少年の練習発表機会として「やんちゃライブ」を実施。初めて人前で披露する青少年から、パフォーマーとして実際に活躍している人たちまで幅広い参加があり、ボランティア含め青少年同士が交流する機会となった。

⑤相談のできる自習室

- 中3学習支援の枠にはまらない中学生を対象に、喫茶などの枠組みをボランティアに学習相談を寄せられる場として提供した。下半期に定期的な学習相談が寄せられた。

⑥自習室・フリータイム

- 青少年の学習や運動に向けたニーズに応えるとともに、気軽にセンターを活用できる事業として実施。
- 職員・ボランティアとの関わりや他の利用者との交流が見られた例や、利用者がボランティア登録をした例、事業参加者としてプログラムにエントリーした例など、次の展開へと活動が広がった。

⑦ロビーギャラリー

- 青少年による芸術活動の展示、また青少年育成関係者の展示の場として、ロビーにギャラリーを設置。写真展・デッサン・絵画展などの幅広い展示が行われた。
- 付加的なプログラムとして、出展者によるトークセッションやライブペインティングなどの取り組みを実施した。また、出展者のいない期間には、青少年が写真を投稿し参加できる応募企画を実施した。

(6) 20代の自立支援事業

①20代話せる喫茶

- 20代の青少年がチャレンジの場として運営に関われる場所として運営。また青少年が気軽に利用できる場として実施。同年代との語らいを求めて参加する青少年も複数いた。

②あたまと身体を使って働くことを実感するプログラム「アジプロ」(若者サポートステーションと共催)

- 喫茶運営を通じて就労体験事業を3クール実施。事前研修、体験実習、事後振り返りを一貫して行った。

- 一連の体験を通じ参加者が自分自身の強みや弱みについて考える機会を持つとともに、物事を決める際には参加者同士で意見を出し合いながら実施し、また互いにフィードバックの機会を持つことで、他者への関わりや自身の立ち位置について意識することも目指した。

(7) グループ体験事業+総合相談リンク

① グループプログラム

- グループ活動を通じて他者との関わり経験を持つ場として実施。月2回の園芸活動を行い、メンバー間でつど意見交換を行いながら植物の成育、採集、販売などの経験を持ち、達成感や仲間との関わりによる楽しさを実感する機会となった。

② 相談事業

- グループ運営や個別の相談に対応するため、ユースワーカーの研修を進めスキルの向上を図っている。

(8) 若者支援者サポート事業

① 支援者勉強会

- 青少年支援者などが集い学び合う場として、さまざまな領域で活動している支援者を対象とした勉強会を予定していたが、事業再編の中で平成24年度は未実施となった。

事業一覧

事業名	実施期間	回数	参加数 (のべ)	備考(実施場所等)
共催(ほっとハウス喫茶)	通年(月1~2回・金曜日)	18	371	準備・スタッフ含む
共催(京都ARU喫茶)	通年(第2・第4火曜日)	23	417	準備・スタッフ含む
共催(塔南の園夏祭り)	8月25日		340	館内・館外含む
児童館等地域連携	7月29日			参加者数ボムズに計上
フリーマーケット	6/24,9/16,12/16,3/10	4	1294	来場者・出店者(1227) ボランティア(67)
ボランティア育成(説明会)	通年(不定期)	38	97	
レンアイリョク向上委員会	毎月第1月曜日	12	228	参加者(216), 講師(12)
個別サポート			2(13)	
中3学習サポート	毎週木曜日		5(199)	のべ数ボランティア(114)含む
20代話せるプログラム 「ご飯の会」	6/29,7/27,8/24,9/28,10/19,11/16,11/30,12/21,1/18,1/29,2/15,3/15		69(140)	調理準備(69), ボランティア(2)等含む
ボランティア体験VoM'S	毎月第4土曜日,その他イベントに応じて参加		426	ボランティア含む,洛陽児童館(294)含む
ロビー喫茶	通年(毎週月・木曜日),付随して夏季のかき氷やイベント時	190	1638	参加者(1449) ボランティア(189)
ロビープログラム各種事業				
居場所事業	通年(毎日)		631	
ロビー掲示板	通年		550	
卓球大会	通年(毎月第1火曜日)	8	43	
夏休みプログラム	7/24,7/31,8/3,8/7,8/11,8/17,8/21		164	準備・ボランティア含む
クリスマスサロン	12月18日		41	ボランティア含む
新年みなみまつり	1月5日		63	ボランティア含む
やんちゃライブ2013	3月23日		94	ボランティア含む
フリータイム	通年		3415	

伏見青少年活動センター

全体の動向

「青少年の地域参画」を主要なテーマとし、地域社会の多様な人や組織との連携を進めた成果、具体的な事業として展開することができた。また、ロビーを使った新規事業展開、SNSや機関紙での活動発信等から市民への認知も広がり、利用者数は前年度比4,621人増加も、リニューアル後3年が経過し横ばい状態となってきた。

(1) 青少年による在住外国人支援事業の実施

①にほんご教室の開催

日本語を母国語としない人たちへの日本語学習支援活動(月・土曜)や交流会を青少年ボランティアが主体となり行った。前年度の震災の影響による学習者の減少は見られなくなった。

②京都市立小中学校派遣日本語ボランティアの育成

京都市教育委員会に協力し、市立小中学校に派遣する日本語指導ボランティアの募集と研修を行った。しかし今後は、京都市国際交流協会をボランティアの受け入れ窓口として一本化し、京都市教育委員会が事務局を担っていくことになったため、平成24年度をもって、センターは育成事業から撤退することとなった。

(2) 多文化共生社会をめざした地域課題の解決とその人材育成

①異文化交流サラダボウルProject(若者による異文化理解を深めるための事業の企画、運営)

宿泊交流プログラムや異文化交流カフェ、サラダボウルフェスタなど異文化理解を目的とした多くの事業企画、センターの利用グループとコラボした企画を自立的に立案できた。徐々に活動の幅が広がってきているが、地域課題や多文化共生に関する活動などについて、目は向いていない。

(3) 社会適応に困難を感じている青少年のための居場所事業

①ちょこっとプログラム

対人関係や社会適応に苦手意識をもっている青少年に、毎月2回、料理や軽スポーツなどの手軽なプログラムを提供し、交流する機会を創出した。行政機関や医療機関からリファー先として打診される機会が増加しているが、ボランティアの安定的な確保とスーパーバイズの体制が課題となっている。

②縁庭プロジェクト

ひきこもりやニートの若者を支援するNPO法人京都ARUと、園芸療法士グループ「笑福庭」との三者共催で、テラスの花壇づくりを媒介とした交流プログラムを通年で実施。平成24年度より参加者募集の広報を拡大して行ったが、継続的な参加者は数名に留まっており、事業内でのグループ形成には至っていない。

③地域若者サポーター伏見ブロック共催事業

地域若者サポーター(伏見ブロック)との共催事業「はじまるさろん」を開催した。社会参加・自立に課題を抱える子を持つ保護者、若者の自立に関心を寄せる市民を主な対象とし、参加者の想いの共有・思いへの共感のできる空間を、ホスト役となる伏見ブロックの若者サポーターが提供した。

(4) 子どもから大人への移行期支援事業

①十代十色

主として夏休みと冬休み～年度末にかけて、多感な中高生世代に、「人と交流できる場、表現できる場、多様な価値に触れる場」を提供する事業を開催した。

*夏は「出店カフェ」や「コスプレの館」など。

*冬は「出店カフェ」や「受験めし」、連続したセミナー形式の学び場などを実施した。

*健康フィエスタと連動した、恋愛や性に関するワークショップを実施した。

②STEP(中3学習会)の開催

生活保護世帯の中学生を対象とした学習支援活動を、福祉事務所、BBS会と共同で開催した。

③フリータイム、自習室の運営

利用者間の交流を目的として、中会議室とスポーツルームAに誰もが事前予約なしで、気軽に利用できる場と機会を提供した。また、センター事業への導入の場として自習室を通年運営した。

(5)若年就労問題対策事業＝京都若者サポートステーション職業ふれあい事業

①食の仕事をのぞいてみよう ～伝統食カフェのお手伝い～

未就労の青年を対象にしたカフェ出店の体験事業。「日本の伝統食を考える会」の協力を得て、伝統食の試作からカフェ出店までを多様な世代の協同により実施した。

(6)コミュニティスペース事業

①つながりCafe

ロビーと料理室を活用した多世代交流のためのコミュニティカフェ。平成24年度は定期的に活動する出店者が複数いたことで、頻繁にカフェが運営された。また、持込み企画では、音楽・多文化に関するイベントが開催され、カフェ出店者とのコラボ企画などの広がりも出てきた。

②手づくり市

カフェ事業の発展形として、毎月1回、第2日曜にセンターロビーで、青少年等の手づくり作品のマーケットを開催した。

③つな画廊(ロビーギャラリー)

ロビー空間を使った作品展示スペースを整備し、広報を行い、9月より作品展などを行った。

(7)情報受発信事業

①ふしみんメディアパブ事業

青少年が自由に情報を受発信できるための技能習得の機会と場を提供し、市民メディアの振興を図る事業。徐々に番組配信を行うための利用が増えてきている。

- 定期番組の発信:主催番組として地域のユニークな人を紹介する「人財ZAKUZAKU」と、青少年が企画運営する「ユースドリーム」をサポートの協力を得て、隔週木曜日に発信した。
- USTREAM中継スタジオの一般貸し出しと運営サポートを行った。
- 映像制作ワークショップ「～動画で語る若者の思い～」の実施。青少年が一から映像作品を制作した。
- ☆戦争の記憶プロジェクト:青年たちが87歳の戦争体験者の語りを聴き取り、動画作品に収めるプロジェクト。最後には体験者を招いたトークイベントも開催した。4月～8月(2011年度2月より実施)
- 伏見の祭りプロジェクト:高校生と大学生のチームが伏見区御香宮の祭りに密着取材し、動画で紹介するプロジェクト。最後には動画作品を完成させた。9月～10月

②機関紙の発行:7月、11月、3月の3回発行。各2500部

ボランティアが中心となり、記事の内容・構成・取材・編集作業などを行った。積極的に取材に出かけたり、ロビーやWEBアンケートを実施したりなど、活動の幅が広がっている。

(8)地域パートナーシップ事業

①健康フィエスタ 11月17日

NPO法人CHARM、伏見保健センター、京都市国際交流協会、伏見区社会福祉協議会との共催事業。地域課題であるさまざまな理由で医療や福祉に繋がりにくい外国籍住民および青少年に、健康に関する情報を得、自分の健康状態を知り、診療に繋がる機会として啓発イベント型健康相談会を実施した。

②ノーバディーズパーフェクト 8月～9月 毎週金曜全8回

「はのんの会」と共催の乳幼児をもつ親支援ワークショップ。近隣大学に呼びかけ、15名(延べ46名)の学生の参加があり、託児体験に力を注いだ。

③伏見まるごと博物館

野外博物館構想をプラットフォームして、青少年の地域参画と多世代交流をはかる事業。伏見いきいき市民活動センターとの共催。前年度の準備委員会から運営委員会への移行、3月にはまるごと博物館のオープニングイベントを区役所とセンターのスペースを使って開催した。

(9)その他、関係機関との連携事業など

①伏見サロンの定期開催 毎月1回

まちづくりアドバイザー、区役所と協働し、地域の異業種情報交換の場として茶話会を開催した。

②融合プロジェクト

伏見区基本計画に記された同プロジェクト内「絆づくりプロジェクト」の事務局として参画し、「伏見を魚にざっくばらん」と名づけたワークショップを4回実施した。

③その他

- 京都にほんごRings(日本語教室を実施している団体・個人のネットワーク)に参画した。
- 「ソーシャル&コミュニティビジネス」に向けた事業展開の検討会として、運営協力会メンバーからの参画を得て、研究会を行った。
- 震災プロジェクト関連の継続支援として、青少年による学習会支援を行った。

事業一覧

事業名	実施時期		回数	参加数 (のべ)	実施場所／備考
にほんご教室／月曜クラス	通年		43	(523)	内、ボランティア266人
にほんご教室／土曜クラス	通年		39	(806)	内、ボランティア433人
ボランティア説明会・研修・交流	通年	※	12	(153)	(登録者数35人)
サラダボウルProject	通年	※	68	(1572)	説明会、宿泊、カフェ、フェスタ
市小中学校派遣日本語ボランティア (説明会・研修・派遣)	通年		6	(325)	(登録者数21人)
ちょこっとプログラム	通年	※	23	(202)	内ボランティア登録者数10人
ボランティア研修	2月		1	9	
縁庭プロジェクト	通年	※	74	(261)	縁庭まつり含む
十代十色	6月～3月	※	35	(697)	掲示板利用人数含まず
STEP(中3学習支援)	通年	※	53	(511)	BBS/学習支援ボランティア数含む
フリータイム	通年		297	(4504)	中会議室及びスポーツルームA
自習室開放事業	通年		308	(6846)	
職業ふれあい事業	1月～2月	※	7	6(342)	カフェ来客数含む
つながりCafe	通年		92	(1299)	出店者・来客含む(仕込日含む)
手づくり市	毎月第2日曜		12	(1265)	出店者・来客含む
つな画廊(ロビーギャラリー)	9月～3月		110	(867)	
ふしみんメディアパブ	通年	※	143	(603)	ワークショップ・定期番組配信他
戦争の記憶プロジェクト	4月～8月	※	27	7(143)	トークイベント入場者含む
伏見の祭りプロジェクト	9月～1月	※	10	6(53)	参加者のうち、高校生、大学生は4人
健康フィエスタ	4月～1月	※	10	(454)	運営スタッフ含む
ノーバディーズパーフェクト	7月～9月		10	11(321)	内ボランティア登録15人、のべ46人
伏見まるごと博物館	通年	※	30	(490)	オープニングディ来場者含む
地域若者サポーター共催事業	10月～3月	※	14	(87)	
震災プロジェクト関連学習会 (スタディスペース伏見)	通年	※	37	(393)	学習支援ボランティア数含む

※印・・・回数・人数にボランティアミーティングを含む。参加者数欄の()は、延べ人数

V. 収益等事業

京都市内を中心として活動する, 市民団体・地域団体に青少年活動センターを活動場所として利用していただいた。

一般利用数 40, 540人(全利用数の8. 7%)